

温もりある社会を

社会福祉法人福寿会理事長
荒井 進氏



「何があってもここがある」一。そんな思いで福祉事業に取り組んだのは、今から18年ほど前になります。以来、社会福祉法人福寿会として、特別養護老人ホーム福寿乃郷、ほっとin福

寿草、福寿草小荷駄町の3つの施設を運営、在宅・施設サービスを展開し「地域福祉の拠点」としての役割を担うとともに、サービス付きシニア向け住宅も開設しています。

福祉の分野には24年間務めさせていただいた県会議員時代からかかわっています。しかし、高齢化の波の速さは予想以上で、本格的な高齢化社会への対応を掲げたゴールドプランや、「いつでも・だれでも・どこでもサービスを受けることができる」をうたった介護保険制度は、その波に吞まれようとしています。加えて介護に携わるスタッフや看護師不足は顕著で、現場は厳しい状況に置かれています。私たち理事長が一致結束して課題を明らかにし行政当局に要望・提言するとともに、多くの方々に実情

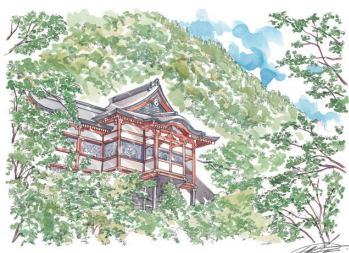
をお話しし、理解と協力を得なければならないと考えております。

山形商工会議所の議員となったのは昭和53年(1978)11月ですから、かれこれ40年。遠藤栄次郎氏、小松久兵衛氏と共に最古参となりますでしょうか。この機会に当社の歴史などを少し紹介しますと、父である荒井正年しやうねんが昭和22年、40歳のとき蔵王の麓、山形市上野で製材工場を始めました。当時の上野は戦後の荒廃した空気に覆われ、仕事がなく人々から活力が失われておりました。危機感を募らせた父は、地域の人を雇用して暮らしを保証し、地域を盛り立てていくことを決意。周囲の人に「あらまさ」と呼ばれ親しまれていたことから、その名前を冠した「荒正木材あらい」を7年後に設立し、木材製造から建築、住宅設備・不動産業へと業態を転換、社名を「あらい荒正」に改めました。私は地元の農業高校を卒業後、2年くらい農業に携わっていましたが、父が木材業を手掛けていたこともあり、中央大学で勉強をし直し卒業後、父の事業を承継しました。

地元の人たちに仕事を与えたい、と起業した父ですが、福祉事業を始めた私も多くの人に仕事の間を提供していることとなります。高齢者やその家族に安心感をもっていただくためには、働く方々の充実した生活が大切です。そのことをあらためて痛感しています。

さて、私は今、母校(山形市立蔵王二小、旧半郷尋常小学校)の偉大な先輩斎藤茂吉の歌碑を国指定重要文化財松尾山観音堂に建立すべく準備を進めています。昨年、蔵王を詠んだ茂吉の歌碑20基が「蔵王文学のみち」として整備されました。観音堂の歌碑建立は、その「別格」と位置付けております。ぜひご賛同を願う次第です。

(あらい荒正取締役会長 山形商工会議所議員)



今月の表紙

「唐松観音堂」(山形市釈迦堂)

ふるさと画家・上野啓太氏作。「わが町」をテーマに、イラストでまちおこし運動を行っている「やまがたマーチング委員会」(事務局・あらい大風印刷)提供。